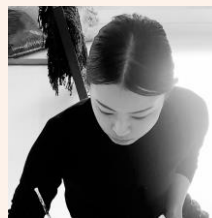


笹 塚

西村 祐美（にしむら ゆみ）

1984年福岡県生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科卒業。
Web制作会社、映像制作会社勤務後、アナログへの回帰を試みる
中で染織を独学。

【受賞歴】SICF22 保坂健二郎賞(2021)、Arte Laguna Prize
ファイナリスト(2021)、Independent Tokyo 武石太郎賞・石橋
高基賞(2019)など



「NR60_01」
2023年

素材：綿、麻、アクリル、パネル、600 x 600 x 55mm

SAKAMOTO ENTERTAINMENT

1997年熊本県生まれ。多摩美術大学統合デザイン学科卒業。
素材を研究し、新たな視点からものを見つめ直しデザインやアート
に落とし込む。

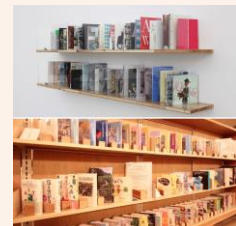
【受賞歴】muni art award 2022ファイナリスト。アートオリン
ピア2022入選。長亭GALLERY展2022入選。SHIBUYA AWARDS
2021入選。第3回KYOBASHI ART WALL art competition優秀賞



「RUBBER BANDS COLLECTION」
2019年
素材：輪ゴム

山本 未知（thirdkindbooks）

日本大学生産工学部 創生デザイン学科 スペースデザイン専攻 卒業。
現在 thirdkindbooks という名前で活動中。本との出会いや関わる
環境に新たな可能性を提案している。その他アートプロジェクトの
企画・展示構成や設営、アーカイブ映像制作など。今年10月より開
催予定の「さいたま国際芸術祭2023」市民プロジェクトでは空間
デザイン、アーカイブ映像を担当する。



■上：「群馬青年ビエンナーレ2019」
群馬県立近代美術館の本展にて、これまで当美術館で開催された
展覧会の全図録を借用し表紙を展開して並べた作品。（Yu Ohara との共同制作）

■下：「さいたま国際芸術祭2020」
芸術祭の旧大宮図書館会場にて、計画したSACP（さいたまアートセンタープロジェクト）ROOMに
関わる様々な参加者が持ち寄った本を閲覧できるライブラリー空間を制作。

幡ヶ谷

中山 琳太郎（なかやま りんたろう）

2000年東京都生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース
卒業。粘土やスタイロフォームなど可塑性のある素材を用い
て立体作品を制作する。自身が生活の中で発見した感覚や景
色を、幼少期の曖昧だった感覚や景色とリンクさせ、作品を
通して再構築する。

【受賞歴】公益財団法人 北野生涯教育復興会彫刻奨学生



「nomadic list」
2022年

素材：発泡スチロール、石粉粘土、アクリル絵の具 140×90×130cm

澁木 智宏（しぶき ともひろ）

北海道小樽市出身。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。
日常の暮らしの中で個々に記号として認識されている物事を、
連続性・集合性・一体性の観点から捉えなおすことに関心を持
ち、制作活動を行う。近年の主な展覧会に、「MMMみなとメ
ディアミュージアム2020→2021」、「UNMANNED 無人駅の
芸術祭」など国内外で発表を行う。



「隣の景色」
2021年

Film on Windows ひたちなか海浜鉄道車内

天草 ミオ（あまくさ みお）

埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。
透明なフィルム紙の裏側から描く、レイヤーが逆転したペイン
ティングのほか、ドローイング、陶を制作する。「視線」や「見
られるもの」、「内と外のあいだ」をキーワードに、記憶や物語、
歴史を重ねあわせた作品を作る。9月末よりCenter line art
festival Tokyo 2023の「Space Sharing Program」に参加。



「Party Night」
2022年

素材：和紙、アクリル絵具、土、その他